

第3章 高安千塚古墳群の概要

高安千塚古墳群の本質的価値である「①畿内有数の大型群集墳」、「②渡来系集団と地域社会の関係がわかる古墳群」を適切に保存活用していくため、高安千塚古墳群全体と各支群の特徴を踏まえた上で、史跡指定の範囲の現状を把握しておく必要がある。

高安千塚古墳群は、大窪・山畑支群、服部川支群、郡川北支群、郡川南支群の4つの支群(1、2頁・図3-1参照)の合計230基の古墳で構成されているが、服部川支群は、高安千塚古墳群の本質的価値を構成する最も中心的な支群であり、概要をまず整理する。そのあと、北から大窪・山畑支群と郡川北支群、そして、未指定の支群であるが高安千塚古墳群を構成する支群である郡川南支群の順で述べる。

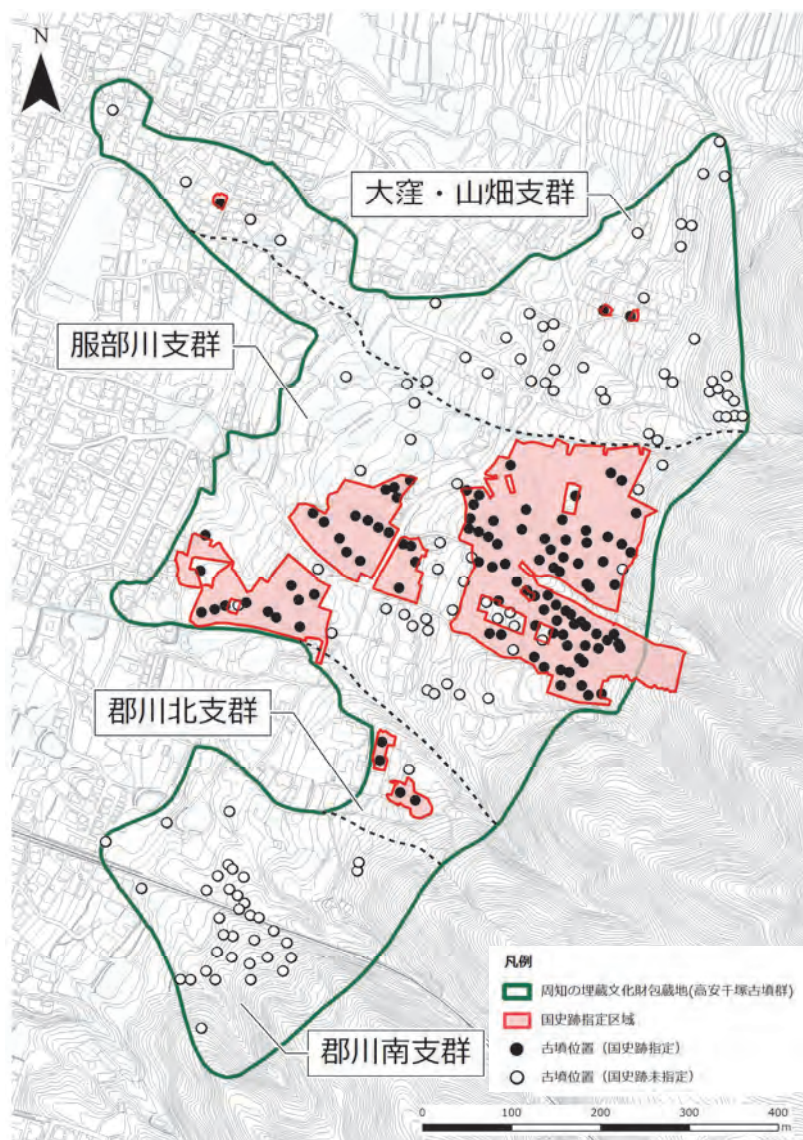


図3-1 高安千塚古墳群と史跡指定範囲

第1節 服部川支群

(1) 支群の概要

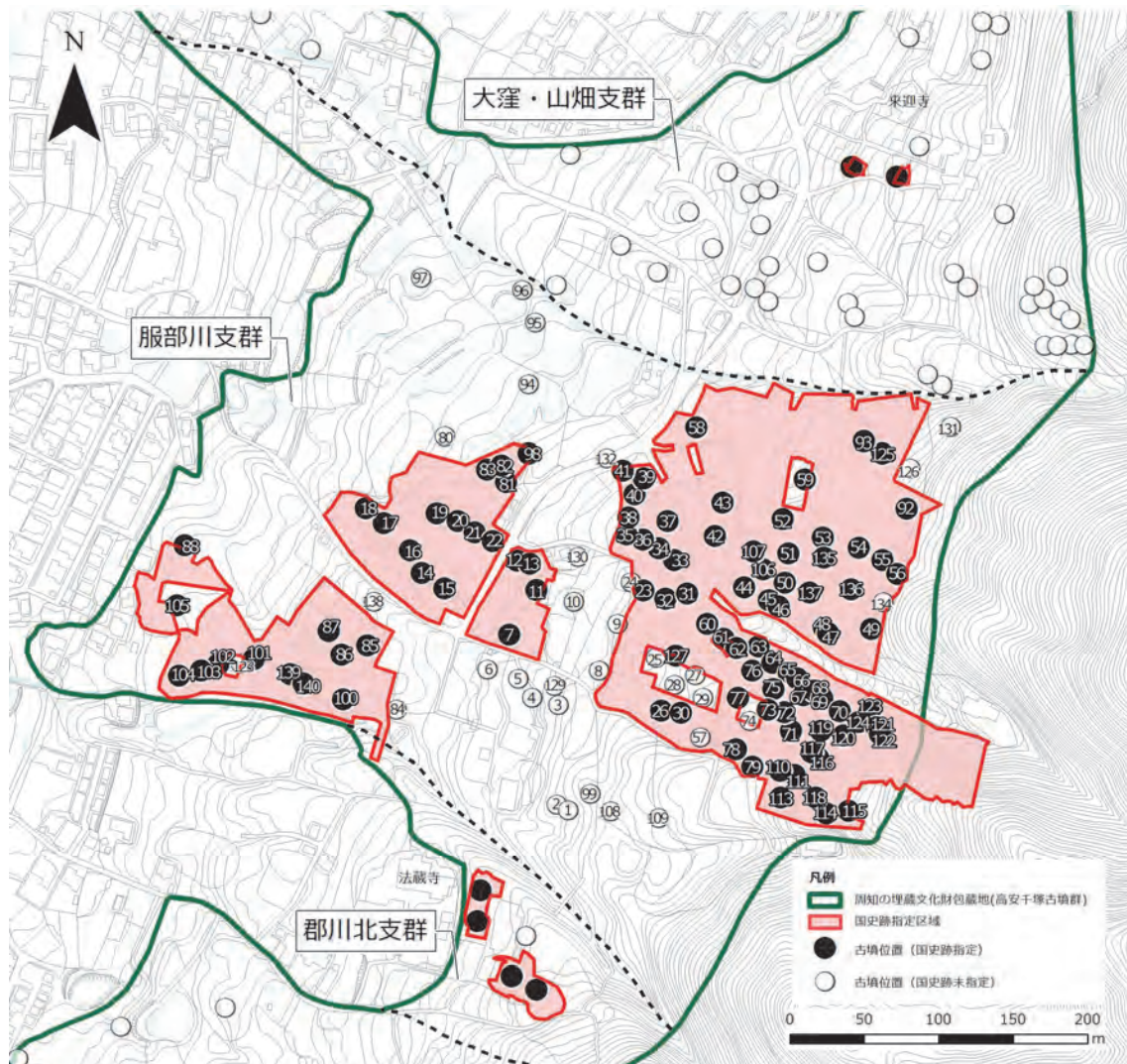


図 3-2 服部川支群 古墳分布図



図 3-3 服部川支群 航空写真（平成 28 年 1 月撮影）

服部川支群は、南北約 300m、東西約 500m の約 18.8 万 m^2 の範囲である。谷筋を流れる北の服部川と南の松尾谷にはさまれており、扇状地の尾根状の微地形を利用して古墳が築造され、東側の標高の高い急斜面地の山林には広がっていない。

山腹に立地していることから、見通しのきく場所では西側に大阪平野を一望することができる。

高安千塚古墳群全体で現存する 230 基の古墳のうち、最も多い 137 基の古墳が密集し、大型の石室が多く含まれる中心的支群である。明治時代にはモースやガウランド等の外国人研究者が調査に訪れている。モースが調査した服部川 7 号墳や、ガウランドが写真撮影した二つの石室をつなげた全国的にも例のない服部川 25 号墳（二室塚古墳）など著名な古墳がある。石室内の発掘調査は、ほとんど行われていないため、副葬品の内容は明らかでないが、服部川 134 号墳（森田山古墳）で 5 世紀後半の須恵器と、追葬と考えられる 7 世紀代の圭頭大刀が出土している。

高安千塚古墳群の石室石材は、山麓に分布する片麻状黒雲母花崗岩が使用されていることが多いことが指摘されてきた（奥田 1992）。さらに周辺の発掘調査でも谷筋や古墳が立地する地山層の中に人頭大以上の石が確認されている。また、支群東方の一の谷付近で近代の石切場も確認されている。これらのことから、服部川支群の石室石材は、一の谷や松尾谷をはじめとする支群周辺の谷川や山麓側などの近隣から運ばれたものと考えられる。



図 3-4 服部川支群からの市街地の眺望（東から）



服部川 7 号墳



服部川 25 号墳（二室塚古墳）

図 3-5 服部川支群の代表的な古墳

（２）史跡指定地の状況

服部川支群は、指定面積 61,586.53 m²で、当初その範囲に 97 基の古墳が分布することを確認していた。そして、平成 27 年度に服部川支群で実施した航空レーザ測量による詳細な現況地形の測量図（図 3-6 参照）により新たに 5 基を加え、史跡指定地内で 102 基、支群全体で合計 137 基の古墳がある。

史跡指定地内は畑地や樹木畑がある段々畑状の緩傾斜面で、ほとんどが農業振興地域で、多くが農用地に指定されている。古墳のある植木畑の管理状況は様々であり、管理の行き届いたところだけでなく、大きく成長した植木が繁茂した畑や資材置き場となっている箇所もみられ、史跡の保存、管理上の課題といえる。特に墳丘及び石室

の保存への影響がみられるものがあり、その対応が求められる。

各古墳の保存状態は様々で、墳丘や石室が良好に保存されているものでだけでなく、墳丘が損壊したものや、石室が露出、半壊したものなどもある。

これらの現状を把握するため、表 3-1 に、服部川支群を構成する史跡指定地内の古墳ごとの特徴やその評価、そして、古墳の現状として、墳丘と石室の状態を「非常に良好→良好→やや良好→半壊」の保存状況で4段階と5段階に分類、さらに墳丘上の樹木を「支障なし→注意→危険」と生育状況で3段階に分類、工作物等の有無の状況を4段階で整理している。さらに墳丘及び石室の保存上、優先的に検討・対処すべき事項も記載している。

古墳の活用は、安全に見学でき、土地所有者の了解を得た服部川7号墳、42号墳、78号墳の3基について、古墳名板を設置するとともに、古墳群の普及冊子等に紹介している。また、市指定史跡の服部川25号墳（二室塚古墳）に説明板を設置している。

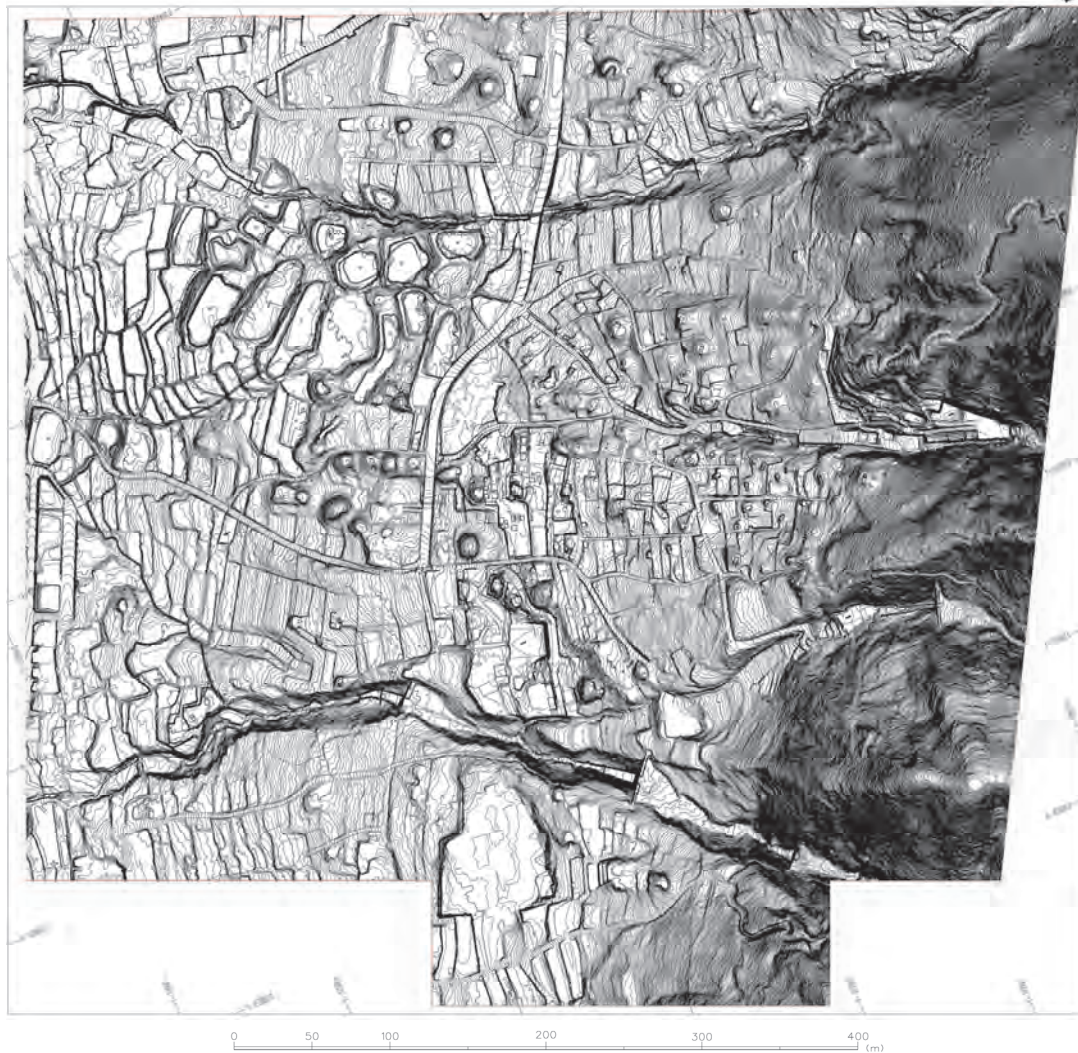


図 3-6 服部川支群 航空レーザ測量図



①非常に良好な墳丘・石室（服部川 7 号墳）



②非常に良好な石室（服部川 7 号墳）



③非常に良好な石室（服部川 16 号墳）



④非常に良好な墳丘・石室（服部川 17 号墳）



⑤非常に良好な墳丘（服部川 21 号墳）



⑥非常に良好な墳丘・石室（服部川 51 号墳）



⑦非常に良好な墳丘（服部川 51 号墳）



⑧非常に良好な墳丘（服部川 116 号墳）

図 3-7 非常に良好な保存状況にある墳丘・石室の例：服部川支群



①良好な墳丘・石室（服部川 12 号墳）



②良好な墳丘・石室（服部川 35 号墳）



③良好な墳丘・石室（服部川 42 号墳）



④良好な墳丘・石室（服部川 47 号墳）



⑤良好な石室（服部川 116 号墳）



⑥良好な墳丘（服部川 77 号墳）



⑦良好な墳丘・石室（服部川 78 号墳）



⑧良好な石室（服部川 103 号墳）

図 3-8 良好な保存状況にある墳丘・石室の例：服部川支群



①やや良好な墳丘（服部川 14 号墳）



②やや良好な墳丘・石室（服部川 30 号墳）



③やや良好な墳丘・石室（服部川 37 号墳）



④やや良好な墳丘・石室（服部川 56 号墳）



⑤やや良好な墳丘・石室（服部川 62 号墳）



⑥やや良好な石室（墳丘は良好）（服部川 70 号墳）



⑦やや良好な墳丘・石室（服部川 76 号墳）



⑧やや良好な石室（墳丘は良好）（服部川 120 号墳）

図 3-9 やや良好な保存状況にある墳丘・石室の例：服部川支群



①半壊している墳丘・石室（服部川 32 号墳）



②半壊している墳丘・石室（服部川 60 号墳）



③半壊している石室（墳丘はやや良好）（服部川 71 号墳）



④半壊している墳丘・石室（服部川 72 号墳）



⑤半壊している墳丘・石室（服部川 98 号墳）



⑥半壊している墳丘・石室（服部川 114 号墳）



⑦半壊している墳丘・石室（服部川 115 号墳）



⑧半壊している墳丘・石室（服部川 125 号墳）

図 3-10 半壊している墳丘・石室の例：服部川支群



① 墳丘上の植木畑（服部川 23 号墳）



② 倒木の危険性のある樹木（服部川 12 号墳）



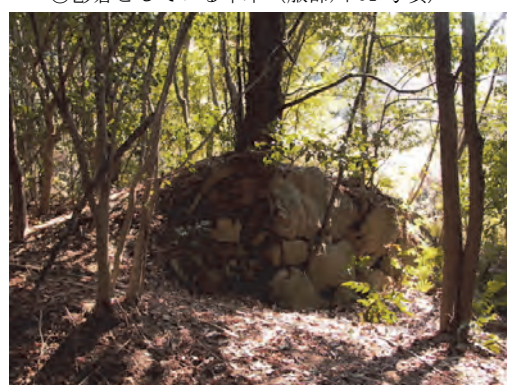
③ 墳丘上で倒れている樹木（服部川 51 号墳）



④ 鬱蒼としている草木（服部川 61 号墳）



⑤ 盛土が流出しつつある古墳（服部川 77 号墳）



⑥ 石室を抱えている樹木（服部川 79 号墳）



⑦ 墳丘上で大木化している樹木（服部川 88 号墳）



⑧ 開口部を塞いでいる樹木（服部川 93 号墳）

図 3-11 墳丘上にある樹木の例：服部川支群



①小屋、柵（服部川 30 号墳）



②電柱支線（服部川 33 号墳）



③資材置き場、簡易焼却施設（服部川 39 号墳）



④庭石置き場（服部川 62 号墳）



⑤家屋、コンクリート舗装（服部川 81 号墳）



⑥石垣（服部川 93 号墳）

図 3-12 墳丘上等にある工作物の例：服部川支群

表 3-1 服部川支群 史跡指定地の古墳

凡例				
<墳丘の保存状態>			<工作物等>	
非常に良好	◎	墳丘にほとんど削平・崩落等がみられず、良好な保存状態である。	ない	－ 工作物等がない。
良好	○	墳丘に削平・崩落等があるものの、全体に良好な保存状態である。	あり	○ 石垣がある。
やや良好	△	墳丘の盛土が流出し、石室が露出している。	放置された工作物等	△ 利用されていない工作物等（石垣を除く）がある。
半壊	×	墳丘が、1/2 以上は壊れている。	利用されている工作物等	▲ 簡易焼却施設や小屋など利用されている工作物等（石垣を除く）がある。
<石室の保存状態>			<樹木> ※樹木調査成果をもとに下記の判断基準に、個別古墳の状況を加味して判断した。	
非常に良好	◎	石室の石組みに崩落や弱い部分等がみられず、良好な保存状態である。	支障なし	○ 現時点では、概ね古墳に影響がないと判断される。
良好	○	石室の石組みの一部に崩落や弱い部分等があるものの、全体に良好な保存状態である。	注意	△ 古墳に影響がない程度だが、将来「危険」になる可能性がある。 ・幹周り 50～100 cm以上の高木性樹木があり、かつ石室の上にあり、将来的に大木化で自重による石室圧迫の恐れがあるもの。 ・幹周り 50～100 cmの深根性樹木があり、かつ石室の上にあり、将来的に根の侵入で石室破壊の恐れがあるもの。 ・幹周り 50 cm未満の枯木があり、将来的に倒木や腐食による墳丘の流出の恐れがあるもの。
やや良好	△	石室の石組みの半分程度に崩落や弱い部分等がみられ、見学にすぐに処置は必要ないが、今後必要である。		
半壊	×	石室の石組みの大半が弱い、あるいは一部でも石室に入るには危険であり、早急に処置が必要である。	危険	× 古墳に影響が出る可能性がある。 ・幹周り 100 cm以上の樹木があり、かつ石室の上にあり、大木化で自重による石室圧迫の恐れがあるもの。 ・土壌厚 50 cm以下でなおかつ石室の上にある根の侵入で石室破壊の恐れがあるもの。 ・幹周り 50 cm以上の枯木があり、倒木や腐食による墳丘の流出の恐れがあるもの。 ・樹木や地被植物が無いことで墳丘上の土壌の流出の恐れがあるもの。
未開口	－	石室は未開口であり、内部を確認することはできない。		

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状	保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)				関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板		
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)						墳丘の 保存 状態	石室の 保存 状態	工作物 等	墳丘上 樹木			墳丘	石室
服部川 7 号墳 (図 3-5、 図 3-7①②)	大字服部川 693-8	畑	22.0	6.9	右片袖	11.6	6 世紀 後葉	径 22mの円墳。高安千塚古墳群中最大規模の右片袖式横穴式石室で、玄室平面形態は方形である。石室入口付近を米国人博物学者E・S・モースが調査し、スケッチしている。	墳丘・石室とも良好である。開口部付近上方の盛土がやや流出している。石室内実測調査時の基準マークが遺存している。	◎	◎	○	△	・開口部付近上方盛土流出保護処置の検討 ・墳丘上樹木の整理伐等の検討	・実測調査時基準マークの撤去	・昭和 41～43 年、大阪府教育委員会が墳丘測量・石室実測調査 ・平成 19 年度から普及冊子に見学できる古墳として紹介 ・平成 27 年度から高安千塚ボランティアで清掃	○
服部川 11 号墳	大字服部川 693-9	畑	18.0	4.5	未開口	不明	6 世紀 後半か	径 17mの円墳。未開口のため、石室内も築造当時の状況が保たれている可能性あり。	未開口のため、石室内部の状況は不明だが、墳丘の状態は良好。史跡指定地外の墓地と近接している。	○	—	○	×	・墳丘上樹木の整理伐等の検討		・昭和 41～43 年、大阪府教育委員会が測量調査	
服部川 12 号墳 (図 3-8①、 図 3-11②)	大字服部川 693-9	畑	15.0	4.5	右片袖	8.0	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は方形である。墳丘の西側裾で良好な状態の墳丘の列石を確認し、高安千塚古墳群で初めての外護列石を確認例である。服部川 13 号墳と連続して造られている。	墳丘西から南が削平されているが、全体に概して良好である。西側盛土の流出がある。墳丘上に植木がある。	○	○	—	×	・墳丘上樹木枯木や枝落ち危険性があるため、整理伐等の検討 ・墳丘西側(道路側)の表土流出保護処置の検討	・実測調査時基準マークの撤去	・昭和 41～43 年、大阪府教育委員会が墳丘測量・石室実測調査 ・平成 17～18 年度、西側墳丘裾を(財)八尾市文化財調査研究会が発掘調査	
服部川 13 号墳	大字服部川 693-9	畑	15.0	3.5?	右片袖	8.1	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。石室の石組みは精緻である。12 号墳と連続して造られている。	墳丘・石室ともに良好である。墳丘南側の表土がやや流出している。石室天井の奥部分の石材が欠失し、穴がある。	○	○	—	×	※墳丘上樹木の枯木があるため整理伐等の検討 ・墳丘南側の表土流出保護処置の検討	・天井奥部分の石材欠失による穴の処置	・(財)八尾市文化財調査研究会が測量調査	

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状	保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)					関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板	
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)						墳丘の 保存 状態	石室の 保存 状態	工作物 等	墳丘上 樹木	墳丘			石室
服部川 14 号墳 (図 3-9①)	大字服部川 693-1	原野	長径 18.0 短径 15.0	5.9	右片袖	7.9	6 世紀 後葉	径 15～18mの円墳。中規模の 右片袖式石室で、玄室平面形 態は長方形である。石室の石 組みは精緻である。	羨道の天井石及び墳丘南側盛 土は一部崩落している。石室 内実測調査時の基準マークが 遺存している。	△	×	○	×	※墳丘南側盛土 流出保護処置の 検討 ・墳丘上樹木の整 理伐等の検討	・実測調査時基準 マークの撤去	・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量・石室実測 調査	
	大字服部川 693-4	畑															
	大字服部川 693-5	畑															
服部川 15 号墳	大字服部川 693-4	畑	18.0	4.3	不明	不明	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。墳丘は比較的 良好である。	墳丘南東は削平されている。 石室は未開口である。墳丘南 東は削平されているものの、石 室は玄室を中心に遺存してい る。	○	－	▲	×	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討		・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量調査	
	大字服部川 693-5	畑															
服部川 16 号墳 (図 3-7③)	大字服部川 693-1	原野	26.0	7.2	両袖	8.1	6 世紀 後葉	径 26mの円墳、高安千塚古墳 群で最大規模の両袖式石室 で、玄室平面形態は長方形で ある。石室の造りは精緻であ る。	墳丘・石室とも良好である。	◎	◎	－	×	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討	・実測調査時基準 マークの撤去	・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量・石室測量	
	大字服部川 850	原野															
服部川 17 号墳 (図 3-7④)	大字服部川 693-1	原野	14.0	5.0	右片袖	8.8	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片 袖式石室で、玄室平面形態は 長方形である。石室の造りは精 緻である。	墳丘・石室とも良好である。	◎	◎	○	×	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討			
	大字服部川 1692	畑															
服部川 18 号墳	大字服部川 693-1	原野	21.5	5.7	右片袖	9.5	6 世紀 後葉	径 21.5mの円墳。中規模の右 片袖式石室で、玄室平面形態 は長方形である。石室の造りは 精緻である。	墳丘北から周囲が削平されて いるが、全体に概して良好であ る。開口部で流入土が厚く、開 口部が非常に狭い。	○	○	－	△	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討	・開口部閉塞処 置の検討		
服部川 19 号墳	大字服部川 693-7	原野	21.0	5.5	右片袖	7.2	6 世紀 中葉	径 21mの円墳。中規模の右片 袖式石室で、玄室平面形態は 方形である。高安千塚古墳群 でも初現期の高いドーム状の 天井の石室であり、渡来系要 素を残している。	墳丘は良好である。石室は羨 道部天井石が落ちかかってお り、また石がとがっていて危険 である。石室石材が比較的小 さく、石組みが弱い。	◎	×	△	×	・墳丘上樹木・枯 木に対する整理 伐等の検討	※危険箇所の処 置 ※石室の補強処 置あるいは閉塞処 置の検討	・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量 ・平成 20 年度八尾 市立歴史民俗資料 館の特別展示図録 に写真掲載 ・石室が危険なた め、開口部バリケ ードを設置。	
	大字服部川 795-1	畑															
	里道⑥	道路敷															
服部川 20 号墳	大字服部川 693-7	原野	18.0	4.0	右片袖	7.7	6 世紀 中葉	径 18mの円墳。中規模の右片 袖式石室で、玄室平面形態は 方形である。石室形式からみ て、服部川 19 号墳の次に造ら れたものと考えられる。高安千 塚古墳群の中でも初現期の高 いドーム状の天井の石室であ り、渡来系要素を残している。	墳丘は良好である。石室石材 が小ぶりであり、石組みが弱 い。	◎	△	▲	×	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討	※石室の補強処 置あるいは閉塞処 置の検討	・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量 ・平成 20 年度八尾 市立歴史民俗資料 館の特別展示図録 に写真掲載 ・石室が危険なた め、開口部バリケ ードを設置。	
	大字服部川 795	山林															
	里道⑥	道路敷															
服部川 21 号墳 (図 3-7⑤)	大字服部川 693-6	畑	16.0	5.5	不明	不明	6 世紀 後葉	径 16mの円墳。石室未開口で あるが、未開口のため、石室内 も築造当時の状況が保たれて いる可能性がある。	石室は未開口である。墳丘は 良好に遺存している。	◎	－	－	△	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討		・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量	
	大字服部川 693-7	原野															
	里道⑥	道路敷															
服部川 22 号墳	大字服部川 693-7	原野	15.0	2.7	右片袖	6.6	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片 袖式石室で、玄室平面形態は 長方形である。石室天井はド ーム状天井の名残りを留め、石 室形式からみて、服部川 20 号 墳の次に造られたものと考えら れる。	墳丘の一部に削平があるもの の墳丘・石室とも概して良好で ある。	○	○	△	△	・墳丘上樹木の整 理伐等の検討	・実測調査時基準 マークの撤去	・昭和 41～43 年、大 阪府教育委員会が 墳丘測量・石室実測 調査 ・平成 17～18 年度、 (財)八尾市文化財調 査研究会が発掘調 査	
	里道⑥	道路敷															
服部川 23 号墳 (図 3-11①)	大字服部川 693-11	畑	17.0	3.0	右片袖	7.6	6 世紀 後葉	径 17mの円墳。中規模の右片 袖式石室で玄室平面形態は長 方形である。	墳丘は良好である。墳丘上全 体に植木あり。平成 5 年調査時 は内部に入れたが、現在は入 れない。	◎	－	○	△				
	大字服部川 693-19	畑															

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状					保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)		関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)										墳丘	石室		
服部川 26 号墳	大字服部川 693-25	畑	12.0	3.2	右片袖	4.7	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片袖式で、玄室平面形態は長方形である。	石室は奥壁部分が取り除かれ、納屋になっている。墳丘上に植木ある。	○	△	▲	○		・工作物の取り扱い検討		
	大字服部川 693-26	畑															
服部川 30 号墳 (図 3-9②、 図 3-12①)	大字服部川 693-26	畑	14.0	3.3	右片袖	4.3	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	羨道部に納屋がある。奥壁は欠失しており、石室は露出している。墳丘上に植木がある。	△	△	▲	○		・工作物の取り扱い検討		
服部川 31 号墳	大字服部川 693-12	畑	16.6	4.8	右片袖	7.7	6 世紀 後葉	径 16.6mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘周囲は削平されている。開口部が狭く、現在は内部に入れない。墳丘上に植木がある。	○	○	○	△		・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-13	畑															
服部川 32 号墳 (図 3-10①)	大字服部川 693-11	畑	不明	不明	不明	3.3	6 世紀 後葉	墳丘上半が削平されているが、石室下部以下が遺存している可能性がある。	墳丘上半は削平されている。石室が地下に埋没している可能性がある。石室下部の左側壁かとみられる石材 2 石が遺存している。	×	×	○	△				
	大字服部川 693-12	畑															
	大字服部川 693-17	畑															
	大字服部川 693-18	畑															
	大字服部川 693-19	畑															
服部川 33 号墳 (図 3-12②)	大字服部川 693-88	畑	16.0	3.5	右片袖	9.0	6 世紀 後葉	径 16mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘周囲は削平されているものの墳丘・石室とも概して良好。墳丘に植木がある。	○	○	△	○				
服部川 34 号墳	大字服部川 693-87	畑	18.0	3.9	右片袖	10.5	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。羨道は長い。石室の造りは精緻である。	墳頂部は削平されているものの墳丘・石室とも概して良好。墳丘に植木がある。開口部は狭い。	○	○	○	○		・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-88	畑															
服部川 35 号墳 (図 3-8②)	大字服部川 693-87	畑	11.0	3.3	右片袖	7.4	6 世紀 後葉	径 11mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。石室の造りは精緻である。	開口部上方付近のマウンド土が流出している。墳丘に植木がある。	○	○	—	△	・墳丘盛土保護処置の検討			
服部川 36 号墳	大字服部川 693-87	畑	13.5	3.4	右片袖	6.6	6 世紀 後葉	径 13.5mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。石室の造りは精緻である。	天井石がやや露出している。開口部上方付近のマウンド土が流出している。墳丘に植木がある。	○	○	—	○	・墳丘盛土保護処置の検討			
服部川 37 号墳 (図 3-9③)	大字服部川 693-87	畑	13.5	3.3	右片袖	6.9	6 世紀 後葉	径 13.5mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。府調査により金環、鉄釘、鉄鏃、須恵器、石棺片が出土した。	石室はドルメン状に露出している。	△	△	○	×	・墳丘盛土保護処置の検討	・石室補強処置の検討	・昭和 41～43 年、大阪府教育委員会が石室実測調査 ・平成 20 年、八尾市教育委員会が出土遺物を報告	
服部川 38 号墳	大字服部川 693-87	畑	16.0	3.2	左片袖	6.1	6 世紀 中葉	径 13.5mの円墳。中規模な左片袖石室で、北東に開口する特異な石室である。	石室開口部は狭い。墳丘上植木がある。	○	○	▲	△		・開口部閉塞処置の検討		
服部川 39 号墳 (図 3-12③)	大字服部川 693-86	畑	15.5	2.2	右片袖	7.9	6 世紀 後葉	径 13.5mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	石室横に工作物がある。開口部は狭い。玄室内に流入土がある。墳丘の上に植木がある。	△	○	▲	△	・工作物の取り扱いの検討 ・墳丘上樹木の整理伐等の検討			
	大字服部川 693-87	畑															
服部川 40 号墳	大字服部川 693-86	畑	12.0	3.3	右片袖	7.3	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	羨道南半削平されている。羨道部の天井石は崩落の危険性がある。	○	×	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・羨道部天井石の補強処置の検討		
	大字服部川 693-87	畑															
服部川 41 号墳	大字服部川 693-86	畑	11.0	2.3	右片袖	4.4	6 世紀 後葉	径 11mの円墳。小規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である	開口部は埋没しており、石室大半も埋没している。天井石一部は欠失している。天井石等露出。	△	△	—	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
服部川 42 号墳 (図 3-8③)	大字服部川 693-60	畑	18.0	5.4	両袖	7.5	6 世紀 後葉	中～大規模の両袖式石室で、玄室平面形態は長方形である	石室天井石露出。墳丘上一部に工作物や造園石材がある。墳丘上に植木がある。	○	○	▲	×	・工作物や搬入物の取り扱いの検討 ・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 19 年度から普及冊子に見学できる古墳として紹介	○

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)					墳丘	石室	関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)					古墳の現状	墳丘の 保存 状態	石室の 保存 状態	工作物 等	墳丘上 樹木				
服部川 43 号墳	大字服部川 693-60	畑	24.7	5.8	両袖	10.3	6 世紀 後葉	径 24.7mの円墳。非常に大規模な両袖式石室で、墳丘も大きい。玄室平面形態は方形である。石室の造りは精緻である。	墳丘・石室ともに良好である。開口部は狭い。墳丘上に植木がある。	◎	◎	△	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-61	畑															
	大字服部川 693-62	畑															
	大字服部川 693-63	畑															
	大字服部川 693-71	畑															
	里道④	道路敷															
服部川 44 号墳	大字服部川 693-57	畑	14.0	4.4	右片袖	6.8	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	羨道端は削平されて、石垣になっている。羨道天井石は転落している。	○	○	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-58	畑															
服部川 45 号墳	大字服部川 693-51	畑	14.0	4.3	右片袖	5.8	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。玄室内の床に凝灰岩製組合式石棺底板 2 石が遺存している。服部川 46 号墳と同一墳丘の可能性がある。	墳丘の北側付近は削平されている。羨道付近は削平されている。開口部は狭い。	○	△	○	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-57	畑															
服部川 46 号墳	大字服部川 693-51	畑	14.0	3.8	右片袖	6.8	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。服部川 45 号墳と同一墳丘の可能性がある。	墳丘の北側付近は削平されている。玄室の天井石は欠失しており、ドルメン状になっている。	△	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-57	畑															
	里道⑧	道路敷															
服部川 47 号墳 (図 3-8④)	大字服部川 693-49	畑	20.0	5.7	右片袖	5.9	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。服部川 48 号墳と同一墳丘の可能性がある。	墳丘南側は削平されている。石室開口部付近の盛土は流出している。開口部は狭い。	○	○	○	△	・墳丘上樹木の整理伐等の検討 ・墳丘盛土流出保護処置の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 904-3	山林															
服部川 48 号墳	大字服部川 693-49	畑	47 号墳と同一墳丘	5.7	両袖	9.8	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。中～大規模の両袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。服部川 47 号墳と同一墳丘の可能性がある。	墳丘南側は削平されている。墳丘盛土の一部は流出している。開口部は狭い。	○	○	○	△	・墳丘上樹木の整理伐等の検討 ・墳丘盛土流出保護処置の検討	・開口部閉塞処置を検討		
	大字服部川 904-3	山林															
服部川 49 号墳	大字服部川 904-3	山林	20.0	6.6	不明	7.0 以上	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。未開口だが墳丘は大きい。	羨道部は一部を除き埋没し、玄室内へ入れない。未開口だが墳丘は良好である。	○	－	△	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
服部川 50 号墳	大字服部川 693-51	畑	15.0	2.5	不明	8.7 以上	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。墳丘は比較的良好である。	羨道南半は削平されている。玄室内は入れない。墳丘南側、羨道南半は削平されている。天井石の一部と羨道右側壁の南端付近は露出している。	○	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室近接する樹木の整理伐等の検討		
	大字服部川 693-52	畑															
	大字服部川 693-54	畑															
	大字服部川 693-57	畑															
服部川 51 号墳 (図 3-7⑥ ⑦、図 3-11 ③)	大字服部川 693-54	畑	18.0	5.4	右片袖	7.5	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	墳丘・石室ともに良好である。	◎	◎	－	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	里道④	道路敷															
服部川 52 号墳	大字服部川 693-71	畑	19.0	6.2	右片袖	8.8	6 世紀 後葉	径 19mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	墳丘西半削平。墳丘上に植木あり。石室露出。開口部狭い。	△	○	○	△	・墳丘盛土流出保護処置の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-72	畑															
服部川 53 号墳	大字服部川 693-53	畑	22.0	5.9	不明	不明	6 世紀 後葉	径 22mの円墳。墳丘は比較的良好である。	墳頂部で石材が露出している。石室は未開口である。墳丘は良好に遺存している。	○	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-54	畑															
	大字服部川 693-72	畑															
	里道④	道路敷															
服部川 54 号墳	大字服部川 870-1	山林	21.0	5.7	右片袖	10.0	6 世紀 後葉	径 22mの円墳。大規模の右片袖式石室。玄室平面形態は縦長の長方形。石室の造りは精緻である。	羨道石の一部が露出している。羨道天井石はやや不安定である。	○	△	－	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・羨道部天井石の補強処置の検討		
	大字服部川 870-3	山林															
服部川 55 号墳	大字服部川 870-3	山林	18.3	4.7	不明	不明	6 世紀 後葉	径 18.3mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	羨道天井石の石材の一部が露出している。石室は未開口である。墳丘は良好に遺存している。	○	－	－	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討			

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状					保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)		関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)										墳丘	石室		
服部川 56 号墳 (図 3-9④)	大字服部川 870-3	山林	18.3	5.0	右片袖 か	5.4	6 世紀 後葉	石材抜き取り痕より右片袖かと推定される。	羨道及び玄室南半は削平されている。石材抜き取り痕がある。	△	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 871-2	山林															
	大字服部川 904-3	山林															
	里道③	道路敷															
	里道⑧	道路敷															
服部川 58 号墳 (図 3-8⑤)	大字服部川 693-76	畑	12.5	4.1	右片袖	6.0	6 世紀 後葉	径 12.5mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	天井石等が露出している。奥壁上方の石が抜けて穴となっている。墳丘周囲は削平されている。	○	△	△	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・墳丘盛土流出保護処置の検討	・石室奥壁穴等閉塞処置の検討		
服部川 59 号墳	大字服部川 693-74	畑	15.0	4.0	右片袖	7.06	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	石室西側中心に露出している。現在内部に入れない。	△	－	○	○				
服部川 60 号墳 (図 3-10②)	大字服部川 693-46	山林	不明	不明	右片袖	2.9	6 世紀 後葉	墳丘規模は不明。高安千塚古墳群では数少ない石室が小規模の可能性ある。	墳丘上半は削平されている。石室天井石等は欠失しており、奥壁付近のみ残存している。大阪府調査時は玄室天井 2 石が残存していた。	×	×	△	○			・昭和 41～43 年、大阪府教育委員会が墳丘測量調査	
	里道⑬	道路敷															
服部川 61 号墳 (図 3-11④)	大字服部川 693-14	畑	17.0	4.8	右片袖	7.0	6 世紀 後葉	径 17mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。石室石積みは 5 段積みでやや古い様相を呈している。	墳丘西側は削平されている。里道に面して天井石が露出している。石室開口部は埋没しており、入れない。	○	△	○	△		・石室石材小さいため、石室の補強処置検討 ・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-45	畑															
	大字服部川 693-46	山林															
	里道⑬	道路敷															
服部川 62 号墳 (図 3-9⑤、 図 3-12④)	大字服部川 693-38	畑	15.0	2.7	右片袖	7.2	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。昭和 39 年調査時に原位置の家形石棺、須恵器、鉄釘等が出土した。	石室周辺削平されている。石室は露出している。石室や墳丘に造園用石材が積まれており、入れない。	△	△	▲	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・搬入物取り扱いの検討	・搬入物取り扱いの検討	・昭和 39 年に日新高校が調査	
	大字服部川 693-45	畑															
服部川 63 号墳	大字服部川 693-45	畑	14.0	3.1	右片袖 か	5.2	6 世紀 後葉	中規模の右片袖式石室で、玄室は長方形であると考えられる。	墳丘は北側は削平されている。石室は露出している。石室や墳丘に造園用石材が積まれている。見上げ石や羨道の石等が欠失している。	○	△	▲	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・将来的には搬入物取り扱いの検討	・搬入物取り扱いの検討		
服部川 64 号墳	大字服部川 693-39	畑	15.0	3.0	不明	不明	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。石室未開口であるが、未開口のため、石室内も築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口のため、石室内部の状況は不明である。上部に小さな穴があり、玄室が見える。墳丘上に植木がある。	○	－	○	△	※穴の閉塞処置必要			
	大字服部川 693-45	畑															
服部川 65 号墳	大字服部川 693-39	畑	14.0	3.7	右片袖	6.7	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。墳丘は服部川 66 号墳と連続して造られている。	開口部は埋没している。石材の一部が欠失している。墳丘上に植木がある。	○	○	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置検討必要		
	大字服部川 693-40	畑															
	大字服部川 693-44	畑															
	大字服部川 693-45	畑															
服部川 66 号墳	大字服部川 693-39	畑	14.0	3.4	右片袖 か	5.1	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片袖式石室であると考えられる。服部川 65 号墳と連続して墳丘が造られている。	石室石材は露出している。天井石の一部が欠失している。流入土により埋没している。墳丘上に植木がある。	○	△	○	○		・石室補強処置検討必要		
	大字服部川 693-40	畑															
	大字服部川 693-44	畑															
	大字服部川 693-45	畑															
服部川 67 号墳	大字服部川 693-40	畑	15.0	3.8	右片袖	4.9	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。小型の右片袖式石室である可能性が高い。	石室石材は露出している。天井石の一部が欠失している。流入土により埋没している。	△	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-41	畑															
服部川 68 号墳	大字服部川 693-40	畑	8.0	2.5	不明	不明	6 世紀 後葉	径 8mの円墳。服部川 69 号墳の西側に連続して墳丘造られている。石室は流入土により判然としないが、小型石室である可能性がある。	墳丘裾部削平されている。石室は流入土によりほぼ埋没している。	△	△	－	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-41	畑															
	大字服部川 693-44	畑															

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状					保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)		関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)										墳丘	石室		
服部川 69 号墳	大字服部川 693-41	畑	10.0	2.2	右片袖	5.0	6 世紀 後葉	径 10mの円墳。高安千塚古墳群では数少ない小規模な横穴式石室で、右片袖式である。玄室平面形態は縦長の長方形である。服部川 68 号墳と連続して墳丘が造られている。	墳丘裾部削平されている。石室は流入土によりほぼ埋没している。	△	△	○	×	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討			
服部川 70 号墳 (図 3-9⑥)	大字服部川 693-41	畑	14.9	3.3	右片袖	6.5	6 世紀 後葉	径 14.9mの円墳。高中規模の右片袖式石室である。	墳丘の西から南の一部が削平されている。天井石の一石が欠失している。	○	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・天井開口部閉塞処置の検討		
服部川 71 号墳 (図 3-10③)	大字服部川 693-32	畑	16.0	4.7	右片袖	4.3	6 世紀 中葉	径 16mの円墳。服部川支群でも最古の長方形玄室形態(A類)石室である。	天井石等が露出している。石材の一部が欠失している。石材は小ぶりで弱い。石材一部崩落。羨道南半は埋没している。石室内に小石が多くある。墳丘の上に植木がある。	△	×	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-33	畑															
	大字服部川 693-34	畑															
	里道⑩	道路敷															
服部川 72 号墳 (図 3-10④)	大字服部川 693-34	畑	14.0	3.1	右片袖	4.5	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。右片袖式石室である。石室石材が露出してドルメン状となっており、石室構造を確認できる。	玄室北半及び羨道南半が削平されている。石室内半分近く流入土で埋没している。石室はドルメン状に露出している。	×	×	○	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-35	畑															
	大字服部川 693-40	畑															
	里道⑨	道路敷															
服部川 73 号墳	大字服部川 693-35	畑	14.0	3.1	右片袖	7.2	6 世紀 中葉	径 14mの円墳。服部川支群でも最古の長方形玄室形態(A類)石室である。中～大規模の右片袖式石室玄室は長方形プランを呈している。玄室天井は 3 石の平天井である。	墳丘裾削平されている。石室石材は露出している。石材は小さく、石組みは弱い。玄室や羨道の一部の石材が崩落している。奥壁上方の石材は欠失している。墳丘の上に植木がある。	△	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	※奥壁開口部閉塞処置 ※石室補強処置の検討		
	里道⑨	道路敷															
服部川 75 号墳	大字服部川 693-39	畑	16.0	4.7	右片袖	5.1	6 世紀 後葉	径 16mの円墳。服部川支群の中でもやや古いドーム状の天井(B類)石室である。小規模な右片袖式石室である。	墳丘裾削平されている。石室石材は露出している。流入土があり、開口部は狭い。墳丘の上に植木がある。	○	○	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-40	畑															
	里道⑨	道路敷															
服部川 76 号墳 (図 3-9⑦)	大字服部川 693-38	畑	14.0	4.2	左片袖	6.4	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。数少ない(高安千塚古墳群では4基)左片袖式石室の一つである。中～大規模の石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	石室周囲の墳丘は削平されている。石室石材は露出している。奥壁石材は弱くなっている。	△	△	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室近接する樹木の整理等の検討 ・奥壁側開口部閉塞処置・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-39	畑															
服部川 77 号墳 (図 3-8⑥、 図 3-11⑤)	大字服部川 693-37	畑	14.0	3.6	右片袖	7.6	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。墳丘周辺は一部削平を受けているものの墳丘の形状がよくわかる古墳である。服部川支群の中でもやや古い長方形玄室形態(A類)石室で、中～大規模の右片袖式石室である。	墳丘北側から裾部削平されている。墳丘上に樹木が無いため、表土流出の危険があり、処置が必要である。左側壁の一部が崩落している。	○	△	―	×	※表土流出の危険性があるため、墳丘保護の処置必要	・石室一部補強処置必要		
	里道⑨	道路敷															
服部川 78 号墳 (図 3-8⑦)	大字服部川 693-28	畑	18.0	5.0	右片袖	6.3	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。墳丘北側の高低差が大きく、墳丘の大きさがよくわかる。	墳丘北側裾削平あり。石室石材は露出している。墳丘の上に植木がある。	○	○	○	×	・古墳に入る道への不法投棄の対策検討 ・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討	・天井開口部閉塞処置の検討 ・石室一部補強処置	・平成 19 年度から普及冊子に見学できる古墳として紹介	○
	大字服部川 693-29	畑															
	大字服部川 693-30	畑															
	大字服部川 693-31	畑															
服部川 79 号墳 (図 3-11⑥)	大字服部川 693-31	畑	14.0	5.2	右片袖	5.7	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。	墳丘西半は削平を受けており、石室の左側壁のみ残存している。石室上に樹木がある。	×	×	○	×		・石室近接する樹木の整理伐等の検討		
服部川 81 号墳 (図 3-12⑤)	大字服部川 795	山林	13.5	4.9	右片袖	7.4	6 世紀 後葉	径 13.5mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘上に建物や石碑等がある。	○	○	▲	×	・工作物の撤去の検討			
服部川 82 号墳	大字服部川 795	山林	12.0	3.5	右片袖	6.3	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	墳丘南寄りに建物あり。墳丘の西から南の一部が削平されている。羨道石材の 2 石ほどが崩落している。	○	△	▲	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・工作物の撤去の検討	・石室補強処置の検討		

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状					保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)		関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)										墳丘	石室		
服部川 83 号墳	大字服部川 795	山林	9.6	2.4	右片袖	4.5	6 世紀 後葉	径 9.6mの円墳。高安千塚古墳群では数少ない小規模な石室で、石室石積みも小型石材が多くやや粗雑である。玄室平面形態はやや歪な長方形である。	墳丘南半や羨道南半の一部が削平されている。石材は小ぶりで弱くなる可能性がある。	○	△	－	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
服部川 85 号墳	大字服部川 1040-4	畑	14.5	3.0	右片袖	7.3 前後	6 世紀 後葉	径 14.5mの円墳。墳丘は比較的良好である。	石室周辺削平されている。開口部は埋没している。天井石や側壁の一部が露出している。	○	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 1040-6	畑															
服部川 86 号墳	大字服部川 1040-4	畑	13.5	3.3	不明	約 6.8 前後	6 世紀 後葉	径 13.5mの円墳。墳丘はやや良好である。	天井石等の一部が露出している。羨道部は埋没している。墳丘周囲は削平されている。羨道天井石は欠失している。未開口のため、石室内部の状況は不明である。	△	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 1040-6	畑															
	大字服部川 1040-7	畑															
服部川 87 号墳	大字服部川 1040-3	畑	16.4	4.7	不明	不明	6 世紀 後葉	径 16.4mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性あり。	天井石は南面に転落している。墳丘南側は削平されている。未開口のため、石室内部の状況は不明である。	○	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・墳丘穴閉塞処置検討			
	大字服部川 1040-4	畑															
服部川 88 号墳 (図 3-11⑦)	服部川 9 丁目 12	山林	23.4	6.2	不明	6.7 前後	6 世紀 後葉	径 23.4mの円墳。石室の大半が埋没して不明だが、石材も大きく大型石室の可能性もある。墳丘も大きい。南側に張出しがあるが、後世のものである可能性が高い。	墳丘裾削平されている。石室内の大半は埋没している。小石が詰まっている。奥壁付近及び羨道付近の天井石は露出している。わずかに内部が見える。	○	－	－	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	服部川 9 丁目 13	山林															
服部川 92 号墳	大字服部川 871-2	山林	19.0	6.2	右片袖	6.8	6 世紀 後葉	径 19mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。石室の造りは精緻である。	石室石材は露出している。墳丘西側は削平されている。開口部は狭い。	○	○	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・奥壁穴閉塞処置の検討 ・開口部閉塞処置の検討		
服部川 93 号墳 (図 3-11⑧、 図 3-12⑥)	大字服部川 872-2	山林	21.0	5.9	右片袖	9.0	6 世紀 後葉	径 21mの円墳。墳丘、石室ともに大きく、中～大規模の右片袖式石室である。玄室平面形態は方形で、石室の造りは精緻である。	墳丘を取り巻くように石垣がある。開口部に大きな樹木がある。	◎	○	○	×	・開口部をはじめとするの樹木の整理伐等の検討 ・整備時墳丘の石垣の処置の検討			
服部川 98 号墳 (図 3-10⑤)	大字服部川 795	山林	13.0	3.7	右片袖 か	6.0 前後	6 世紀 後葉	径 13mの円墳。	墳丘は南西側を中心に削平を受け、石室石材は抜取られている。奥壁と側壁の石材の一部は残存している。	×	×	－	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
服部川 100 号墳	大字服部川 1040-6	畑	16.5	5.2	右片袖	6.1	6 世紀 後葉	径 16.5mの円墳。中～大規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘の西側の一部は削平されている。石室石材の一部は露出し、天井石材や奥壁等が欠失している。	○	△	△	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討 ・墳丘南側盛土流出保護処置の検討	・天井穴等閉塞処置の検討 ・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 1040-7	畑															
	大字服部川 1198	山林															
	里道㊿	道路敷															
服部川 101 号墳	大字服部川 1040-9	畑	12.0	2.8	右片袖	5.4	6 世紀 後葉	径 12.0mの円墳。中規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘周囲は削平されている。開口部は狭い。	○	○	－	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 1199-1	山林															
	里道㊿	道路敷															
服部川 102 号墳	大字服部川 1199-1	山林	18.0	4.5	右片袖	10.8	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。墳丘・石室ともに大きく、大規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は方形である。石室の造りは非常に精緻である。	墳丘周囲の一部は削平されている。天井石の一部は露出している。墳丘の上に植木がある。	○	○	○	×				
	大字服部川 1200	山林															
服部川 103 号墳 (図 3-8⑧)	大字服部川 1199-1	山林	18.0	4.7	右片袖	9.0	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。中～大規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は方形である。石室の造りは非常に精緻である。	墳丘の周囲の一部は削平している。天井石の一部は露出している。墳丘の上に植木がある。現在石室内は納屋として利用されている。	○	○	○	×				
	大字服部川 1200	山林															
	大字服部川 1201	畑															

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状	保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)				関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板		
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)						墳丘の 保存 状態	石室の 保存 状態	工作物 等	墳丘上 樹木			墳丘	石室
服部川 104 号墳	大字服部川 1200	山林	20.7	4.0	不明	不明	6 世紀 後葉	径 20.7mの円墳。石室は未開口のため不明だが、墳丘は大きい。	墳丘の北から西を中心に一部が削平されている。天井石は露出している。石垣内に羨道の石とみられる石が露出している。	○	－	△	×				
	大字服部川 1201	畑															
	大字服部川 1202	畑															
	大字服部川 1203	山林															
服部川 105 号墳	服部川 9 丁目 11	畑	20.0	3.8	不明	不明	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。未開口だが墳丘は大きい。	墳丘西から南の一部が削平されている。南側に天井石の一部が露出している。石室は未開口のため不明だが、墳丘は大きい。	○	－	○	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討 ・墳丘盛土流出保護処置の検討			
服部川 106 号墳	大字服部川 693-54	畑	16.0	4.6	不明	不明	6 世紀 後葉	径 16mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	墳丘の西側の一部は削平されている。墳頂部に天井石と側石とみられる石と落ち込みがある。石室は未開口のため不明だが、墳丘は概して良好である。	○	－	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-55	畑															
	大字服部川 693-57	畑															
服部川 107 号墳	大字服部川 693-55	畑	18.0	5.3	不明	不明	6 世紀 後葉	径 18mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	石材等は地表面では確認できない。石室は未開口のため不明だが、墳丘は概して良好である。	○	－	△	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-56	畑															
服部川 110 号墳	大字服部川 693-32	畑	14.0	6.3	右片袖	5.3	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	石室や羨道南半の一部は削平されている。天井石等は露出している。石室石材の一部は露出している。奥壁石材の一部が欠失している。墳丘は概して良好である。	○	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・奥壁穴閉塞処置の検討		
	里道⑫	道路敷															
服部川 111 号墳	大字服部川 693-32	畑	12.0	3.1	右片袖	5.6	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。中～大規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	石室や羨道南半の一部が削平されている。天井石の 1 石が消失している。墳丘裾北側他削平されている。	○	△	○	×	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
	大字服部川 934-1	畑															
	里道⑪	道路敷															
服部川 113 号墳	大字服部川 934-1	畑	17.0	5.0	右片袖	5.6	6 世紀 後葉	径 17mの円墳。中～大規模な右片袖式石室。墳丘大きい。玄室平面形態は長方形である。	墳丘北側から西側の一部は削平されている。天井石等は露出している。開口部は狭い。墳丘は概して良好である。	○	○	－	△		・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 935	山林															
	里道⑫	道路敷															
服部川 114 号墳 (図 3-10⑥)	大字服部川 934-1	畑	11.0	4.3	不明	不明	6 世紀 後葉	径 11mの円墳。	東西方向に延びる踏み分け道を中心に削平されている。山麓高所に立地している。石室部分の側壁の一部かとみられる石材が残存している。	×	×	－	×				
	大字服部川 935	山林															
	里道⑫	道路敷															
服部川 115 号墳 (図 3-10⑦)	大字服部川 934-1	畑	15.0	6.5	不明	不明	6 世紀 後葉	径 15mの円墳。	踏み分け道を中心に削平されている。山麓高所に立地している。左側壁及び羨道の一部の石材が残存している。	×	×	－	○				
	大字服部川 935	山林															
	里道⑫	道路敷															
服部川 116 号墳 (図 3-7⑧、 図 3-8⑤)	大字服部川 693-32	畑	20.0	5.6	両袖	11.6	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。高安千塚古墳群の墳丘の中でも大きく、非常に良好である。服部川 117 号墳と同一墳丘であることも特筆される。大型の両袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘・石室とも良好に遺存している。天井石等の一部は露出している。	◎	○	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 693-33	畑															
	大字服部川 934-1	山林															
	里道⑪	道路敷															
服部川 117 号墳	大字服部川 693-32	畑	116 号と同一 墳丘	5.6	不明	不明	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。服部川 116 号墳と同一墳丘で、おそらくは服部川 117 号墳に付随する石室である。石室内部は入れず不明である。	天井石等の一部は露出している。	◎	－	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-33	畑															
	大字服部川 934-1	山林															
	里道⑪	道路敷															
服部川 118 号墳	大字服部川 934-1	山林	12.0	6.5	不明	不明	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	石材の一部は露出している。山麓高所に立地している。石室は未開口である。墳丘は概して良好である。	○	－	－	○				
	里道⑫	道路敷															

古墳名 (図版番号)	所在地	地目	墳丘規模		石室 形式	石室長 (m)	時期	本質的価値等の特徴	古墳の現状	保存上の課題 (優先的に検討・対処すべき課題は※印)				墳丘	石室	関係団体による 調査・普及啓発活動	古墳 名板
			墳丘径 (m)	墳丘高 (m)						墳丘の 保存 状態	石室の 保存 状態	工作物 等	墳丘上 樹木				
服部川 119 号墳	大字服部川 693-33	畑	13.0	4.1	右片袖	5.8	6 世紀 後葉	径 13mの円墳。小規模の右片袖式石室で、玄室平面形態は縦長の長方形である。	墳丘上半や羨道南半の一部が削平されている。石室に流入土がある。玄室天井石等や側壁上方の石材欠失している。石材やや小さく石組みがやや弱い。	△	△	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-41	畑															
	里道⑨	道路敷															
服部川 120 号墳 (図 3-9⑧)	大字服部川 693-33	畑	14.0	4.8	右片袖	6.6	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。中規模の右片袖式石室で、服部川支群でもやや古い方形の玄室形態(B類)石室である。	墳丘北西側の一部が削平されている。天井石等の一部は露出している。開口部は狭い。側壁の一部は欠失している。墳丘は概して良好である。	○	△	○	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・開口部閉塞処置の検討 ・石室補強処置の検討		
	大字服部川 693-41	畑															
	大字服部川 934-1	山林															
	里道⑨	道路敷															
	里道⑪	道路敷															
服部川 121 号墳	大字服部川 934-1	山林	20.0	7.4	右片袖	7.4	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。高安千塚古墳群の墳丘の中でも大きく、非常に良好である。同一墳丘内に服部川 122 号墳があることも特筆される。中～大規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	墳丘・石室とも良好に遺存している。天井石等は露出している。玄室奥側天井石欠失している。羨道南半は埋没している。開口部は狭い。	◎	○	—	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討	・奥壁から天井の穴や開口部閉塞処置の検討		
服部川 122 号墳	大字服部川 934-1	山林	121 号と同一墳丘	7.4	不明	不明	6 世紀 後葉	径 20mの円墳。服部川 121 号墳と同一墳丘の石室である。	天井石等は露出している。石室は未開口である。	◎	—	—	×	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
服部川 123 号墳	大字服部川 934-1	山林	14.0	5.8	不明	不明	6 世紀 後葉	径 14mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	墳丘南西側はやや削平されている。石室石材の一部は露出している。未開口である。	○	—	—	×	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討			
服部川 124 号墳	大字服部川 693-41	畑	12.0	5.5	不明	不明	6 世紀 後葉	径 12mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	墳丘の北と南はやや削平されている。石室石材の一部は露出している。未開口である。	○	—	—	△	・墳丘上樹木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 934-1	山林															
	里道⑪	道路敷															
服部川 125 号墳 (図 3-10⑧)	大字服部川 872-1	山林	16.0	5.2	不明	不明	6 世紀 後葉	径 16mの円墳。石室石材が抜き取られ、墳丘は削平されている可能性あり。服部川 93 号墳に近接し、関連性がうかがえる。	石室石材の抜き取り痕かとみられる凹みがある。石材は散乱している。	×	×	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討			
	大字服部川 872-2	山林															
服部川 127 号墳	大字服部川 693-15	畑	16.2	3.4	右片袖	7.6	6 世紀 後葉	径 16.2mの円墳。中～大規模な右片袖式石室で、玄室平面形態は長方形である。	天井石等は露出している。墳丘東と周囲の一部は削平されている。開口部は埋没している。天井部に穴がある。	○	△	○	△		・天井穴部の閉塞処置の検討		
	大字服部川 693-16	畑															
服部川 135 号墳	大字服部川 693-53	畑	13.0	不明	不明	不明	不明	径 13mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口だが、墳丘の状態良好である。	○	—	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 28 年度のレーザー測量により確認	
	大字服部川 693-54	畑															
	大字服部川 693-72	畑															
	大字服部川 870-3	山林															
	里道④	道路敷															
服部川 136 号墳	大字服部川 870-3	山林	15.0	不明	不明	不明	不明	径 15mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口だが、墳丘の状態良好である。	○	—	—	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 28 年度のレーザー測量により確認	
服部川 137 号墳	大字服部川 693-51	畑	13.0	不明	不明	不明	不明	径 13mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口だが、墳丘の状態良好である。	○	—	○	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 28 年度のレーザー測量により確認	
	大字服部川 693-52	畑															
服部川 139 号墳	大字服部川 1040-8	畑	10.0	不明	不明	不明	不明	径 10mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口だが、墳丘の状態良好である。	○	—	△	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 28 年度のレーザー測量により確認	
	大字服部川 1040-9	畑															
	大字服部川 1198	山林															
	大字服部川 1199-1	山林															
	里道⑮	道路敷															
服部川 140 号墳	大字服部川 1040-8	畑	12.0	不明	不明	不明	不明	径 12mの円墳。未開口のため築造当時の状況が保たれている可能性がある。	未開口だが、墳丘の状態良好である。	○	—	△	△	・墳丘上樹木・枯木に対する整理伐等の検討		・平成 28 年度のレーザー測量により確認	
	大字服部川 1198	山林															
	里道⑮	道路敷															